



## ウイズコロナの時代を迎えて

あけましておめでとうございます。新年早々、悲しいニュースの報道に心が痛みます。災害でお亡くなりになった方には心よりお悔やみを申し上げます。

昨年5月に新型コロナウイルスが5類に引き下げられて以降、小児科外来では、次から次にさまざまな感染症が流行しました。春から夏にかけてはヘルパンギーナなどの夏風邪が、秋から冬にかけてはアデノウイルス、インフルエンザウイルスなどの感染症が流行しました。いずれも流行規模が大きく流行期間が長い印象がありました。過去3年間の行動制限とマスク手洗いなどの感染対策により、感染症に免疫のないお子さんが蓄積してきていたことが原因と考えられています。

一方で、新型コロナウイルスの患者さんは昨年の秋以降は少なくなりました。新型コロナウイルスに対する集団免疫が高まってきたのだと思います。しかし、感染により得た免疫にせよワクチンにより得た免疫にせよ感染予防効果は数ヶ月だとされています。抗体をすり抜ける変異株が次々に登場する現状を考えると、特に高齢者や基礎疾患のある方は、重症化予防効果のあるコロナワクチンの年1回接種は必須ではないかと考えます。

### 嘔吐・下痢の初期対応

昨年末から突然の嘔吐で始まる感染性胃腸炎が増えています。

脱水を予防するため、嘔吐が落ち着けば、早急に経口補水液(OS1)の投与を開始しましょう。

少量頻回投与が原則です。まず、5ml程度(スプーン1杯、ペットボトルのキャップ1杯)の経口補水液を3～5分おきに飲ませてください。10～15分程、吐かなければ、飲ませる間隔を3分→2分→1分と縮めていきます。途中で吐けば、30分程度あけて再度スプーン1杯から始めます。OS1を嫌がる時は塩味が少ないゼリータイプがおすすめです。

3～4時間吐かなければ、食事を開始してください。初めは炭水化物から始めます。

食事開始後に嘔吐した時は、その都度、50～100mlの経口補水液を飲ませてください。



### 12月の感染症症情報

インフルエンザが流行しました。定点の医療機関あたりの1週間の発生数は20～40人でした。未就学児では高熱が続くアデノウイルス感染症も多くみられました。

12月中旬からは嘔吐を主症状とする感染性胃腸炎が流行し、溶連菌感染症の持続的な発生もありました。

新型コロナウイルスは少なくなり、1週間あたりの発生者数は2～5人程度でした。



### 12月の利用状況

12月の利用延べ人数は122名、1日平均利用人数は5.8人でした。年齢別では、5歳児28人、2歳児24人、1歳児23人、3歳児20人の順でした。0歳～5歳までまんべんなく入室がありました。

疾患別では、急性上気道炎が38人で最も多く、次いでアデノウイルス感染症19人、インフルエンザ17人の順でした。11月と同様、上記3疾患が主でしたが、その他、感染性胃腸炎、手足口病、ヘルパンギーナなど、感染症の種類がとても多彩でした。

感染症ごとに好発年齢があるため、感染症の種類が多くなると、お預かりする年齢層が広がり12月もお部屋割りに頭を痛めました。今年もキッズケア青い鳥をよろしくお願ひします。